

第37回日本農業賞福島県代表にJAすかがわ岩瀬農産物直売部会が選ばれた！！

平成20年3月27日
JAすかがわ岩瀬
営農部次長兼課長
我妻 丈美



第37回日本農業賞の福島県代表に選ばれたJAすかがわ岩瀬農産物直売部会に対して3月27日に開催された中央会臨時総代会席上で福島県農業協同組合中央会長賞とNHK福島放送局長賞（集団組織の部）が授与された。



JAすかがわ岩瀬農産物直売所部会の農産物直売所「はたけんぼ」の販売生産体制は平成14年設立当初の年間売り上げ1億2千万円から毎年右肩上がりでの実績を上げ、4年後の平成18年度には約10倍の10億円を越える販売実績あげている。今年は新たに加工部会を設立し今後さらにその拡大が見込まれている。会員数も723名と県内の平均的一店舗当たりの約二倍の数であり、会員一人当たりの年間売り上げも約100万円に達する、県内でも優良な店舗である。

女性や高齢者の労力も十分に販売に繁栄した生き甲斐のある団体活動をしている。

「はたけんぼ」ではこれら女性や高齢者の活躍の場として「農業者は生涯現役」を合い言葉に精神面での充実といつでもお金が稼げる、として部員同士でのコミュニティーの場としての役割もあり、零細な自給農家の生き甲斐となっている。

また、地域との連携でも須賀川市内の小中学校15校において地区でとれた野菜・果物を供給しながら、地域と一体となった活動をしている。地域では地産地消から地消地産への合い言葉で「はたけんぼ」の地域への貢献も評価が高い。



今後、集落内の余剰力の効率的活用のため加工部門も新設され、総菜・豆腐・納豆・漬け物等を導入しさらに拡大される。これらの活動と実績が評価され今回の表彰に至ったものである。

あだち地域農業振興センターの開所

あだち地域農業振興センター所長
安齋 基司男



5月1日JAみちのく安達で各市町村長はじめ関係者50人が出席して「あだち地域農業振興センターの開所式」が行われた。菊地正一JA組合長は「安達地域農業の振興発展と活性化や、担い手育成・集落営農促進のため関係機関団体の連携強化による推進体制を構築し、センターを中心に組み込んでいく」と挨拶した。

「組織と業務」

同センターの組織は当面二本松市・本宮市・大玉村の各農政課の担当者とJAの農業振興課担当で構成され、指導機関として安達農業普及職員と中央会・全農県本部が参加する。

主な業務は①水田農業・園芸・畜産など農業の振興の積極推進②担い手への支援体制強化や認定農業者の育成③地域水田ビジョンの推進

米政策改革推進対策・水田経営所得安定対策加入・農地・水・環境保全向上対策など農業構造改革の推進を図ることを目的としている。

これまで米の生産調整は3市村が別々に行っていたため、自治体では過剰に作付けし、産地づくり交付金が減額されペナルティーが課せられた。今後は新センターが米の生産調整を地域間調整を含め三市村全体で進めることで、行政の枠を越えた安達管内で転作対策や商品作物への転換などに取り組みながら、農産物の生産から流通までを広域的に調整する、県内では初の体制となる。

当面毎週一回の定例会を開催し管内の農業

振興についての協議と事務をすすめるとともに、随時開催する。

平成20年度JAたむら集落営農推進地区担当者決まる！！

平成20年5月15日開催
JAたむら集落営農センター長
柳沼 政一



JAたむらでは、この程平成20年度集落営農推進地区担当者全体研修会を、各関係機関同席の中開催されました。

推進集落数27集落・推進担当者54名が決定され、内新規者18名に代表理事富塚専務より委嘱状が交付され、担当者は地域の重要な役割としての認識を新たにしました。

19年度農用地利用改善団体7団体（内特定農業団体2団体）の組織の育成がなされ、20年度に向けては田村地域集落営農推進協議会を中心として、高度化支援集落7集落・重点対象集落6集落・推進対象集落14集落に設定し、担当者がそれぞれ推進計画を作成し目標達成に向けて地域農業者の合意形成更には組織育成活動を展開致します。

委嘱状交付後、ビデオによる先進地事例紹介、関係機関より各担当者の役割、管内の取組み事例、県内の進捗状況、担い手支援事業等集落営農の重要性と関係事業について説明を行いました。

